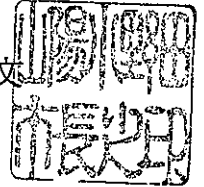


山 土 第 L 2 0 1 1 - 5 号

平成20年（2008年）10月17日

国土交通省道路局長 様

山陽小野田市長 白井 博文



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年（2008年）9月19日付、国道企第37号にて依頼のあったことについて、別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山口県山陽小野田市

山陽小野田市の道路交通体系は、山陽自動車道宇部下関線の開通、さらに国道2号厚狭・埴生バイパスの整備などが積極的に進められた結果、広域的なアクセス性の面では非常に便利になっています。

しかし、一方で、国道190号をはじめ、主要県道小野田山陽線等で慢性的に交通渋滞が発生する区間がみられるほか、企業活動に伴う多数の大型車輛の市街地内の通行や、住宅地内の狭い道路の自動車の通り抜け等、歩行者の安全性が懸念される地区もみられるなど、自動車及び歩行者の安全で円滑な移動を確保する道路ネットワークの形成が必要となっています。

山陽小野田市は、平成17年（2005年）3月22日に旧小野田市、旧山陽町の合併により誕生した新しいまちで、現在策定中の山陽小野田市都市計画マスタープランの市民アンケートの道路に関する意見の中でも、生活に密着した道路の改良や歩道の整備及び旧市町間を結ぶ幹線道路の渋滞対策等、多くの市民の声がよせられました。

道路整備には、長い期間と多額な予算が必要ですが、現状は、市道の道路補修や草刈等の維持管理費に多くの予算を費やし、道路整備が計画通りに進んでいないのが実状です。

しかし、市といたしましては、市の活性化及び市民の安全・安心を確保するためにも、今後とも道路整備に積極的に取り組んでいくことにしておりますので、国におかれましても同様に、積極的な道路行政を推し進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

②-1 地域の現状と抱える課題

山口県山陽小野田市

○現状

山陽小野田市を取り巻く環境は、本格的な少子・高齢・人口減少社会の到来、グローバル経済の進展による地域経済の空洞化、国・地方を通じた厳しい財政状況、地方分権の推進、住民の価値観やライフスタイルの多様化などにより、大きく変化している。

○課題

少子・高齢化、人口減少の進行に対応するため、若者が安心して子供を生み育てられる環境とともに、バリアフリー環境の整備を図りながら高齢者、障害者が安心して自立できる環境づくりができる道路整備が必要である。また、「道路が狭く、歩道が無く、街灯が少ないため通学が危険」など、防災・防犯・交通安全面からも道路整備が必要である。

また、平成20年度に小野田港東沖地区に新たに創業する企業もあり、地域経済の活性化を担う雇用機会の確保や産業活動を活発化するための、湾岸道路の早期整備が必要である。

②-2 地域の目指すべき将来像

山陽小野田市は、平成20年3月に策定された第一次山陽小野田市総合計画のなかで、『人と出会い 支え合い 自然とふれあう 活力ある住み良さ創造都市』の実現を目指しております。

まちづくりの基本理念として、生活における安全性の確保や安心できる環境づくりにより、市民が「住み良い」と感じ、住み続けたいと思える生活環境の向上を図り、また本市の特性を活かし、市外からも住んでみたいと思える魅力ある「住み良さ」の創造を図るように努めております。また、既存産業への支援と合わせて、企業誘致や地産地消、産業間の連携などにより、市の活力の向上と市民が住み続けたいと思う定住志向の向上を図るように努めております。

拠点形成の方針として、山陽自動車道宇部下関線、国道2号、国道190号を東西広域軸、国道316号、主要県道小野田山陽線、山口宇部小野田連絡道路（小野田湾岸線）を南北広域軸として位置づけ、これらの連携軸を中心として、隣接市や県内外の都市との交流機会を拡充するとともに、経済・文化・観光交流を強化し、地域活力の向上を図るために、東西広域軸及び南北広域軸の道路整備を推し進めるように努めております。

また、ＪＲ小野田駅から市民館周辺地域とＪＲ厚狭駅周辺地域を2つの都市核と位置づけ、旧市町に地域交流拠点として、サッカー場から公園通り周辺地域とＪＲ埴生駅から埴生市街地周辺地域の充実に努めております。

2つの都市核と2つの地域交流拠点を連携して、個々の機能分担を図りつつ、市としての一体化を促進し、総合的な都市機能とまちのにぎわいの向上を図り、市町合併を意義あるものにするために、計画的な道路整備を推し進めるように努めております。

これらの道路整備を推し進めることにより、「市民の安心・安全の確保」「まち全体の活力」を基本とし、人情豊かな地域社会と市民の自然等への愛着や誇りを大切にしながら、生活の中での豊かさが享受でき、子供からお年寄りまで安心して、いきいきと住み続けられる「住み良さ」地域づくりを進めていくように努めております。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

山口県山陽小野田市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の活性化	地域高規格道路山口宇部小野田連絡道路（小野田湾岸線） 主要県道小野田山陽線	現在、小野田港周辺の企業活動に伴う多数の大型車輛が公園通り交差点を経由して市街地を通行し、工場に出入りしている状況である。 また、平成20年度に小野田港東沖地区で、新たに操業する企業があり、大型車輛の通行量がさらに増加することになる。 早期整備することにより市民の安全・安心の確保及び企業活動を促進することによる地域の活性化を計る効果がある。 国道190号から山陽自動車道小野田IC間は4車線の計画があるが、長田川橋交差点から北側約800m間が暫定2車線のため、朝夕の通勤時間帯のみならず、慢性的な交通渋滞となっている。 旧市町を結ぶ路線でもあり、早期整備することにより、地域間交流を活発化し、合併を意義あるものにする効果がある。	

	国道１９０号４車線化	国道１９０号丸河内交差点から神田交差点間は４車線の計画がある。 丸河内交差点から北側約７５０ｍ間は、市道との交差点及び中央分離帯等を整備すれば、４車線で供用できる状況ではあるが、２車線で供用しているため、交通渋滞している現状である。 早期整備することにより、市街地への交通アクセスを容易にし、地域を活性化する効果がある。	
少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	市道掃山線	市道掃山線は主要県道小野田山陽と主要県道小野田美東線を結ぶ延長約８５０ｍの路線であり、近隣には幼稚園、小学校等の教育施設がある。 現在安心歩行エリアとして、道路改良に併せ、バリアフリーに配慮した歩道の整備を実施している。 早期に通学路の整備等を実施することにより、交通弱者の安全・安心を確保する効果がある。	